

- 12月13日 (紙) 花園西三丁目子供会
メンバー 中、松岡、ケム、庄部
観客 30人
NHK「北海道の窓」録画
- 12月24日 (紙) 日赤保育所 クリスマスパーティ
メンバー 中、松岡
観客 150人

- 昭和57年
- 2月23日
宇井紙講演会(天理教館)
メンバー 中、松岡、ケム、庄部
観客 100人
紙芝居の本 5冊 2000円
- 2月28日
北海信金前
メンバー 中、松岡、塚本他1名
観客 90人
紙芝居の本 8冊 3350円
- 3月15日
医師会館
小樽運河を考える市民集会
メンバー 中、松岡、ケム、庄部
観客 100人
- 3月17日
高島漁港
メンバー 中、松岡、ケム、塚本、庄部
観客 200人
STV「ズーム・イン・朝」録画
- 4月11日
都通リ電気館前
メンバー 中、松岡、塚本、庄部
観客 45人

紙芝居「ニャン太は運河が大好き」

1969年9月、小樽運河
ニャン太、同市産の「ニャン太」 この三部作の原画六十一枚

「運河を愛する種」をテーマとして、小樽市内の働く若者が、ネロを主人公とした紙芝居を作り、リヤカーを引いて全所を巡遊している。運河をはじめ小樽の街並みの魅力や、その歴史や文化の魅力を伝えた内容で、若者たちはネロに扮して「運河を愛する種」と呼んでいる。公演は既に十回を過ぎ、至る所で母親や子供の人だかりがで



きる様子。三部に分けられた内容は、このほど自費出版して一冊の絵本でもあり、ネロは手紙で人気者になった。主人公の名前はニャン太。題して、「夢・希望・愛」そして運河「ニャン太は運河が大好き」。まず、そのストーリーを紹介しよう。

◇第一部

ニャン太の大冒険

●ニャン太は、小樽市内の空
幸地のトタンの中で生まれたネ

「なぐ、がっしりして、落ち着いた風景なのだろう。運河の周りが、一番このマチらしい風景だ。そう思ったニャン太は、毎日、運河に遊びに来るようになった。

●ある日、運河の中から「助けろ、助けろ」と叫び声が聞こえ、一匹のネズミがおぼれていた。ニャン太は運河に飛び込みネズミを助けた。でも、「うわー、変なおじい。ごりゃごりゃのにおいだ。人間たちが流した汚い水が運河に流れ込んで、こんな運河を汚すなんて、はなはだ可哀しいのだ。」